

国際ロータリー2560 地区目標

ロータリーで
人生をより充実させよう

高田ロータリークラブ会長方針

一所一期一会

持続可能な
インパクトを
生み出そう



国際ロータリー会長 オラインカ・ハキーム・ババロウ

第 2560 地区ガサー 富山 洋

高田ロータリークラブ会長 吉原耕一

幹事 鈴木陽一

広報・会報・雑誌委員会：

阿曾 晋 丸田健一 釜田英一 梅津真揮夫

第 3 回例会 7 月 17 日(金)

No.3

会長挨拶

● 吉原 耕一



皆様、こんにちは。

本日は、会長テーマとしてさせていただきました「一所一期一会」のうち「一所」― 特にクラブの名前にもなっている「高田」についてよく知るための例会の 1 回目となります。

本年度はプログラム委員会の高岡さん、齋藤さん、渡邊さんをお願いしまして、プログラム委員会担当の 15 回の例会の、その多くを「高田」についていろいろな切り口で取り上げていただきます。

「高田」という街は、成立開府の年がはっきりとわかっている珍しい街です。

直江津や新井のように徐々に形作られた街ではなく、ある年にある目的をもってつくられた街だからです。1614年のことです。

本日の講師の歴史博物館館長の花岡様には、大変なご無理をお願いして「高田の成り立ち」というテーマで、高田の開府から明治維新前までの都合 3 回の卓話をお願いいたしました。

高田という街について、より深く知る機会になることと思います。

また、当地の知命堂病院初代看護婦長の「大関和^{ちか}」がモデルの NHK の朝ドラ「風、薫る」の新潟編が今週から始まりました。もちろんドラマですので史実と違うところもあるようですが是非新潟編だけでもご視聴ください。

それでは、花岡様、本日はどうぞよろしくお願いいたします。



出席 報 告

97.96%

メークアップ

7/13 高田 RAC 第 1 回例会：

吉原耕一君・小師智彦君・飯塚宏佳君・細野 仁君

7/18 地区 I A 年次大会：細野 仁君

ニコニコ BOX 紹介

高橋孫左衛門君：朝ドラの『風、薫る』、いよいよ上越市が舞台になってきました。さっそく【あめや】

さんが出て来ました。当店の飴も写っていました。

齋藤尚明君：先週は第 51 回岩の原ワインを楽しむ会に多数ご出席いただきありがとうございました。

誕生日と例会が重なりました。

箕輪賢一君：7/11 開催の高田クラブゴルフ同好会のコンペにて、メンバーにもハンデにも恵まれ「優勝」することが出来ましたのでニコニコします。

加藤公一君：宇喜世が本年開亭で 150 年の記念年となりました。来年 4 月末まで記念イベントを企画しております。ぜひ皆様のご利用お待ちしております。

高岡成介君：7 月 10 日の岩の原ワインを楽しむ会、たくさんの方に参加いただき有難うございました。

幹 事 報 告

配布物：週報No.2

回覧物：第 17 回日韓親善会議神戸大会案内



昨年から話題になった本長者遺跡は古代国分寺跡ではないかと考えられている。こうしたことから、古代越後国府は現在の今池付近であったのではないかと考えられている。

中世に入るとき、内陸にあった国府は直江津に移された。

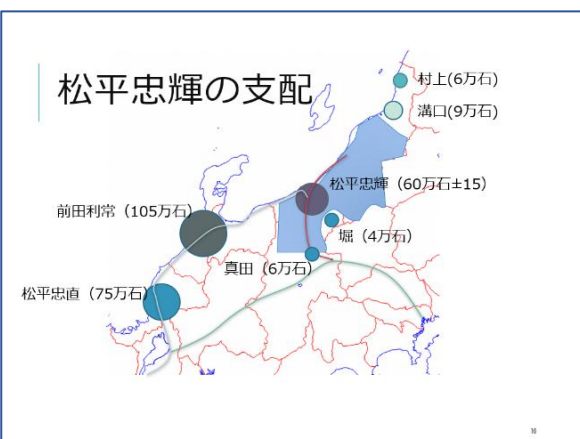
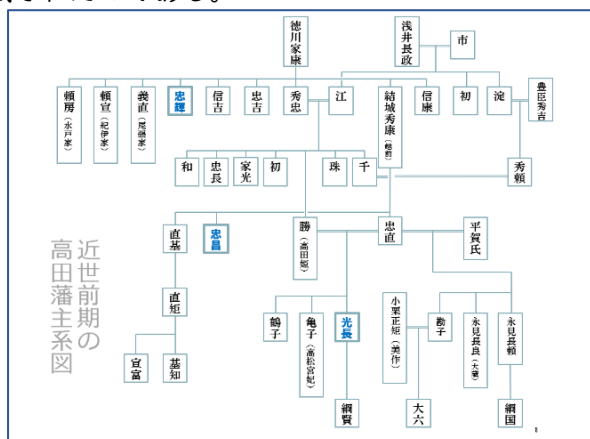
戦国時代のはじめまでは、直江津の港湾都市としての力を背景に、越後国府は繁栄した。しかし、守護代長尾氏の台頭によって越後もまた戦国時代の風雲に巻き込まれていく。春日山は国府の越後守護をけん制し、国内の勢力と対抗するために築城された。そして上杉謙信が誕生し、有力な戦国大名へと成長し関東や北陸へと勢力範囲を広げていった。

やがて豊臣秀吉が国内の統一を果たすと、上杉景勝は豊臣大名となり、1598年秀吉によって会津へと転封し、代わりに越前から堀秀治が越後一国を与えられて入国する。堀家の越後支配には秀吉の強い干渉があった。

堀家は、越後で初めての近世平城福島城を築き、新たな越後一国支配の拠点とするが、徳川家康が江戸幕府を開くと、家康は越後を佐渡-江戸の重要な中継拠点として、また北陸道を押さえる拠点として、自身の六男である松平忠輝を越後一国及び北信を治める地位に付けた。

忠輝は、ただちに北国街道の整備を行い、1614年3月には高田城の築城を開始。伊達政宗を中心に北陸・東北・信州の13の大名たちによる天下普請として高田城は急ピッチで工事が進められ、同年7月には竣工を果たした。家康は高田城の完成を待って、大坂の豊臣秀頼に最後通牒をつきつけ、10月には大坂冬の陣、翌年5月には大坂夏の陣を戦い、豊臣家を滅ぼした。

高田城は、越後一国を治める越後国府の地位を継ぐ徳川の城であり、徳川豊臣の最終決戦の最後の布石として築城されたのである。



高田築城の経緯

- 慶長18年(1613)10月、翌年「越後御普請」を行う旨、発表。
幕府は、従事する大名として、上杉景勝(米沢)、前田利常(加賀)、蒲生忠郷(会津)、最上家親(山形)、伊達政宗(仙台)、真田信之(上田)、村上頼勝(村上)、溝口宣勝(新発田)、仙石秀久(小諸)、佐竹義宣(秋田)、南部利直(盛岡)の13人を指名した。
- 慶長19年(1614)、3月15日高田築城開始。
天下普請として、指名された13の大名が奉行や人夫を派遣した。のべ6万人とも10万人ともされる。4月8日、伊達政宗が到着。富岡の御飯屋に入り、普請を監督した。
- 7月5日にほぼ完成。幕府の奉行が引き上げ、政宗も20日仙台に発つ。
- 同時に高田城下町も完成。福島城下町から人々が移住する。
- 7月29日、家康は豊臣家に方広寺鐘銘の「いいがかり」をつける。
- 同年10月、豊臣方が蜂起、大坂冬の陣が始まる。

高田城の意義を考える

- 直江津を包含する中世越後国府、その機能が堀家に移した福島城とその城下、さらに家康の命によって高田城とその城下は、いずれも越後国府の地位を継ぐ、越後一国支配の中心となる城と城下町であった。
- 高田は徳川一門の居城として、大坂の陣の直前に天下普請で築かれた城と城下町であり、徳川の城としての性格もあわせもった。
- 松平忠輝改易以降、**越後一国支配は崩れ、小藩分立**が進められるが、江戸時代前期、高田は徳川一門による支配が続き徳川の城として存続を続けていく。



本日のお食事 エビチリ定食